

1匹の見失われた羊は？ みこころの月に 校長 Sr.大山 江理子

もし、「自分の好きなところ10個、自分の好きでないところ10個あげてください」と問われたら、どのようなものを思いつかれるでしょうか。児童・生徒にこのような質問をすると、「好きでないところはあげやすい。でも、好きなところは10個も思いつかない」という答えに出遭います。そうかもしれません。それでも考えてみると、自分について意外な発見があるはず。こんなところは自分の良いところかもしれない。こんなところは弱いところではないか。そのようにして9個まで数えて、最後の10番目を言葉にするのはむずかしいものです。そして、実は、弱いところ、自分の好きでないところの10番目に向き合うことにはかなり勇気が必要です。もう9個みつけたから、無理せず、これでよし、と思うかもしれません。しかし、もしかしたら、その10番目が最もケアが必要なところかもしれません。

聖書の中に、見失われた1匹の羊のたとえ話があります(ルカによる福音書15章)。ある羊飼いが100匹の羊をもっていて、そのうちの1匹が見当たりません。99匹も守らなければならないし、さあ、どうしますか、という場面です。

私たちは日常生活で、99%の安心があれば、ほぼ完璧と考えて、Goサインの判断を下します。1%の損失なら、全体に支障なし、そのように判断するでしょう。数値で言えばそうですが、もし、これが人間の集団についてであったらどうでしょうか。統計的には1%は大きな数値ではないかもしれませんが。被害に遭ったのが人口の1%であったなら、甚大でないと思える可能性もあります。しかし、もし、その1%の中に自分の家族がいたら?そのように考えると1%について軽々に判断することはできません。

見失われた1匹が重要なメンバーであることは言うまでもありません。しかし、一方で、その1匹とは、他の99匹を危険にさらす悪質極まる存在かもしれません。よいところは大切にしても、悪いところは切り捨てたい、そのように考えるかもしれません。

それでも、イエスは100匹全部を大切にされます。100人いれば、100人全部が大切です。たとえ迷った一人が周りの人には迷惑な存在であっても、イエスには欠くことのできない一人です。迷った一人を最後まで、見捨てることなく探してください。

今の世界情勢の中でも、好評判の存在と悪評判の存在があります。そのように評価が分かれるのは理由があつてのことですが、イエスの中ではどちらも等しく欠くことのできない存在でしょう。このことを忘れることはできません。

そして、私たち個人の心の中でも、一番切り捨てたい弱さ、嫌な部分がイエスに大切にされている部分なのかもしれません。6月、みこころの月に私たちの弱さと共にいてくださるイエスに心を向けてまいりましょう。



6月の行事予定 ~みこころの月~

3日(金) 家庭学習日(私学一日研修)	16日(木) 6年英単語検定(4限)
4日(土) 保護者講演会幹事会	17日(金) みこころの祝日行事
5日(日) 聖霊降誕の主日	19日(日) キリストの聖体
6日(月) 1年・転入・編入生保護者会	23日(木) ~7月8日(金)
7日(火) ~8(水) 5ゆり校外学習(清里)	2~6年水泳期間
8日(水) ~9(木) 5きく校外学習(清里)	24日(金) イエスのみ心
9日(木) ~10(金) 5ばら校外学習(清里)	25日(土) 保護者講演会(AM)
11日(土) 第1回初等科入試学校説明会	第1回転編入学校説明会(PM)
15日(水) 一日学校参観日	29日(水) 6年まとめのテスト①(1-4限)

学び合うこと

5月28日に、聖マグダレナ・ソフィア・バラの祝日を記念して運動会が行われました。多くの保護者の方々にご来校いただき、有り難うございました。密集を避けるために、ご観覧はお父様とお母様に限定させていただくなど制約をせざるを得ない状況でしたが、皆様にご理解とご協力をいただき開催できましたことを感謝申し上げます。

前日は大雨で運動場がぬかるみ、高学年の児童と共にできる範囲で準備を行いました。準備が間に合うか不安でしたが、その後校務の方々と教員が連携して準備を行い、当日は予定通り始めることができました。母の会(仮称)幹事の皆様も早くからお越しくださり、IDカードや健康観察シートの確認、入場整理などのお仕事を行ってくださいました。終了後は椅子の片付けや足拭きにもご協力いただき、多くの方々に支えていただいていることを、児童と共に深く感謝申し上げたいと思います。

昨年は授業の一環として『スポーツデー』を行い、一昨年は全国で一斉休校の時期でしたから、保護者の方々や来賓の方々をお迎えしての運動会は実に3年ぶりで、3年生以下の児童にとっては初めての運動会となりました。大勢の方々にご覧いただくことはモチベーションの向上にもつながるので、総練習の時よりもさらに自信を持って楽しんで取り組んでいる様子が、子どもたちの笑顔から感じられました。

今回は2学年ずつ分散して開催しましたが、それぞれの回で4年生以上の児童が演技や競技、係活動に全力で取り組む姿は清々しく、低学年の児童にとって「責任を持って取り組む」ロールモデルになったように思います。このように他学年との交流から学ぶべきことは多く、コロナ禍でその機会が減ってしまったのですが、状況を見ながら以前のように異学年交流の機会を持ちたいと考えています。学び合う機会になると期待します。

一つの目標に向かって、クラスや学年、係などで一緒に頑張ることで、学び合う姿勢や連帯感が生まれます。一人では大変なことや気づかなかつたことも、一緒に取り組むことで達成できたり視野が広がったりします。これからも、行事や日常の様々な活動の中で、一緒に「学び合うこと」を大切にしていきたいと思います。



みこころの月のプラクティス  
 「耳をかたむけ、心をつなぐ ~平和な世界を目指して~」

\* 1年副担任東城朋美教諭、3年副担任永岡真麻教諭は、6月17日より産休に入ります。